

## 新潟薬科大学大学院応用生命科学研究科博士前期課程学位論文審査基準

学位論文の審査にあたっては、日頃の研究指導、学位論文発表会等を通して、主に以下の審査項目について、審査委員会(主査及び2名の副査)による評価を行う。

### 1. 学位論文審査の評価基準

- (1) 論文の題目の適切性:論文の題目は、明確な研究目的に沿って適切に設定された課題を端的に表していること。
- (2) 研究内容の妥当性:研究内容は、新規性、進歩性、有用性、独創性のいずれかで評価できること。
- (3) 情報収集能力:文献などの調査により研究の意義を理解できること。
- (4) 研究遂行能力:実験方法の選択と結果の解析が適切で、研究の論理展開が適切であること。
- (5) 論文作成能力:論文の体裁が整っており、記述が適切かつ論理的であり、構成が体系立っていること。

上記した評価基準から、修士学位論文を以下の4段階で評価する。

- A:優れた論文である。
- B:概ね良好な論文である。
- C:修士論文としての水準に達している。
- D:修士論文としての水準に達していない。

### 2. 最終試験の評価基準

公開の学位論文発表会において、研究内容のプレゼンテーションと口頭試問を行い、以下の基準により評価する。

- (1) 研究の内容についてプレゼンテーションできること。
- (2) 関連する分野での当該研究の意義を明確に示すことができること。
- (3) 関連する研究分野に関する基礎的な知識を有すること。
- (4) 研究内容についての質疑に応答できること。

上記した評価基準から、最終試験を以下の4段階で評価する。

- A:プレゼンテーションが優れており、口頭試問に対する回答が明快かつ的確である。
- B:プレゼンテーション、口頭試問に対する回答がともに水準に達しており、かつそれらのいずれかに評価すべきものがある。
- C:プレゼンテーションと口頭試問に対する対応がともに水準に達している。
- D:プレゼンテーションあるいは口頭試問に対する対応のいずれかが水準に達していない。